

かしわぎ



8・9月号
第195号
平成25年
8月26日発行

<http://www.shinjuku.ed.jp/es-kashiwagi/>

不思議のタネ

校長 齋藤 等

「今日も暑いですね」が毎日の挨拶だった今年の夏。「猛暑日」(最高気温が35℃以上)は、気象庁が平成19年から使用開始した特別な用語だったはずですが、もう珍しいことではなくなりました。私は夏休みに沖縄に行った際、「東京よりも涼しいかな?」という不思議な感覚になりました。もちろん、日差しはかなり強いのですが、体を感じる暑さは東京よりもひどくない気がしたのです。沖縄の人に伺ってみると、「猛暑日はない」と言うので、「不思議だな」と、自由研究のように調べてみました。

気象庁が気温を測定している観測所は、全国で929か所ありますが、今年の「真夏日」(最高気温が30℃以上)の日数の上位20位のうち19位までは沖縄県内でした(1位は石垣島で、1/1から8/22までに90日もあります)。「やっぱり沖縄は暑いじゃないか」と思いましたが、さて、本題の「猛暑日」はどうでしょう。上位20位までに沖縄県内の観測所は……、なんと一か所もないのです。20位内どころか、系数という町で3日間を記録したのみでした(ちなみに、都内は練馬が14日間)。「沖縄に猛暑日はない」というのは、本当だったのです。では、なぜ南の沖縄よりも東京の方が暑いのでしょうか。……と本当の自由研究ならば、さらに調べて、考察していくはずですが、今日の始業式で、「誰か調べてみませんか」と話しましたが、自然の不思議さを感じる事例の一つです。

子どもたちは、この猛暑の夏休みをどのように過ごしたのでしょうか?家族旅行やスポーツ合宿、様々な体験活動やイベントに参加し楽しい思い出ができた人もいることでしょう。また、プールにたくさん通って水泳が上手になった人、習い事や塾の勉強などを頑張った人もいることでしょう。夏休み中の様々な体験や普段の生活の中には、「不思議だな」と感じるものがたくさんあります。

教科書には、その学年で学習すべき内容や問題が系統的に用意されていますが、身の回りの生活や体験の中にある「不思議のタネ」を自分で見つけて、調べてみたり考えてみたりすることは、子どもにとって、とても大切な勉強です。学校でも様々な体験や活動をとおして、不思議なことを考える楽しさを感じるよう、指導したいと考えています。

8・9月の行事予定

26	月	始業式 美しい日本語教室6年
27	火	給食始 安全指導
28	水	小中連携の会 4時間授業(1~5年)
29	木	掃除なし時程
30	金	
31	土	
9/1	日	
2	月	児童朝会 委員会活動
3	火	プラネタリウム見学(3年)
4	水	校内研究授業(柏葉) 4時間授業
5	木	体育朝会 計測(1・2・柏葉) 5時間授業
6	金	掃除なし時程 計測(5・6) 社会科見学(4年)
7	土	
8	日	
9	月	児童朝会 クラブ活動 事前健診6年
10	火	計測(3・4)
11	水	箱根移動教室6年① 給食試食会① 学校保健委員会
12	木	箱根移動教室6年② 給食試食会②
13	金	箱根移動教室6年③
14	土	
15	日	
16	月	敬老の日
17	火	プール納め 脊柱側わん健診(5年)
18	水	4時間授業
19	木	一斉学校公開日① 音楽朝会 たてわり班遊び
20	金	一斉学校公開日② 道徳授業地区公開講座
21	土	一斉学校公開日③ 午前授業 学校説明会 特別水曜時程(下校12:20)
22	日	
23	月	秋分の日
24	火	児童朝会 防犯訓練
25	水	
26	木	保護者会(1・2・3年) たてわり班遊び 出前授業(4年)
27	金	保護者会(4・5・6年)
28	土	
29	日	
30	月	児童朝会 掃除なし時程 前期終了(通知表)

8・9月の生活目標 暑さに負けず過ごそう
生活のリズムを戻し、自分の体調管理をしましょう。

はじめての西湖夏季施設

5年担任 高橋 紀夫

8月6日、5・6年生83名を乗せたバスは、山梨県の西湖に向け出発しました。

東名高速を走り、到着したのは富士サファリパーク。サファリツアーでは、間近に見るライオンやキリンなどの姿に、驚きの声があがっていました。

夜は、キャンプファイヤー。フォークダンスを踊ったり、ゲームをしたり、楽しい時間を過ごしました。

2日目は、まかいの牧場でのアイスクリーム作り体験。15分間頑張っって容器を転がし、冷たくておいしいアイスクリームができました。その後の牧場散策では、アスレチックをしたり、動物たちと触れあったりと楽しい時間を過ごしました。

午後は、鍾乳洞探検です。ヘルメットをかぶり、蝙蝠穴を見学しました。腰をかがめて洞窟内を進みながら、自然の不思議さを実感しました。

魚のつかみ取りでは、すぐに捕まえられた子もいればなかなか捕まえない子もいるなど様々でした。捕まえた魚は、夕食のおかずに。命をいただくという食の意味を考えながら食べました。

夜の肝試しは、前日の雨のためコースがぬかるんで中止に。かわりに湖畔で線香花火をしました。男女ペアで落ちる時間を競いあったり、火花の変化を楽しんだり、子どもたちのほのぼのとした姿が見られました。

3日目は富士湧水の里水族館へ。湧水の中を、悠然と泳ぐ淡水魚の姿を見学しました。天然記念物のクニマスも見ることができました。

子どもたちは、この二泊三日の行事でひとまわり大きく成長したと思います。この経験を生かして、二学期からの学校生活をさらに充実したものにしたいと思います。

西湖夏季施設の感想を5年生の児童に聞いてみました。

「サファリパークでみたチーターはスリムでとてもかっこよかったです。」

「牧場で作ったアイスは、とてもおいしかったです。」

「マスつかみがうまくできなくて、友達が追い込んでくれたので、やっとつかめました。」

「肝試しができなくて残念だったけど、ペアでやった線香花火は、楽しかったです。」

「夜、バンガローで友達とおしゃべりしたのが楽しかった。」

「みんなで行ったお風呂には、露天風呂やサウナがあって楽しめました。」

「水族館でマスを見たら、つかみ取りしたことを思い出して、おいしそうだなあと思いました。」

柏木歳時記②「コブシ」

鈴木 秀雄

給食室西側の花壇、理科室の校庭側、砂場東側の花壇にコブシの木があります。運動会の時に白い花が咲いていたのをご存じですか。コブシは、モクレン科で仲間にシモクレンやタイサンボクなどがあります。

果期は9月から10月なので、そろそろ果実ができているかと双眼鏡で観察したところ、ありました。未成熟の実は、緑色で鱗の付いた筆のような形です。しばらくすると、ブドウの房が全部付いたような奇妙な形のこぶこぶの集合果になります。この形が握りこぶしに似ていることからコブシとなったという説があります。10月頃に熟すと果実が裂けて白い糸の付いた鮮やかな赤い種子が出てきます。地味なコブシが一転してスポットライトをうけたようになります。このように目立つのは、被食散布つまり、鳥に食べられた種子が遠くに運ばれ散布されるためだろうと考えられます。

今、砂場前のコブシの横にきれいなピンクのサルスベリの花が咲いています。コブシの熟した果実は可憐ではありませんが、いのちをつなぐ営みを感じていただくと幸いです。